

鶏卵生産費調査結果について

—<農業観測補完資料より>—

36年の鶏卵生産費調査の結果がこのほど農林省によって発表された。この種の調査は初めてであり、調査上種々の問題はあるが、養鶏経営上参考になる点があると考えられるので、以下簡単に概観してみる。下表にみられるように、調査集計戸数は64戸で、飼養規模によっては集計戸数にかなり差がある。全国平均でみると、鶏卵100kg当りの第二次生産費は鶏卵販売労働費を含めて15,887円、これに対し販売価格は17,558円となっている、したがって、差引き1,671円の黒字となる。これに要する労働日数が53.1

日であるから、1日当りの家族労働報酬は826円となる。なお、この調査は35年10月～36年9月の1ヵ年の調査で、この年は33年に次ぐ3年周期に当る安値の時期を含んでおり、鶏卵生産者にとっては必ずしも恵まれた年ではなかったといえよう。参考のために、この調査農家の鶏卵1キログラム販売価格をみると、175円58銭であった。

次に下表より、飼養規模別にみると次のような点が指摘される。

1日当り家族労働報酬

飼養規模	集計戸数	換算産卵鶏飼養羽数	100kg当り					差引	100羽当り労働日数	1日当り家族労働報酬
			販売価格	生産費および費用			計			
				第二次生産費	鶏卵販売労働費	計				
全国平均	64	435	17,558	15,811	76	15,887	1,671	53.1	326	
～100羽	6	71	17,958	19,779	582	20,361	△2,403	165.6	251	
100～250	21	177	17,568	17,055	90	17,145	423	80.2	460	
250～500	24	351	17,597	16,401	130	16,531	1,066	67.9	623	
500～750	4	629	17,188	16,759	46	16,805	383	46.4	613	
750～1,000	3	903	17,626	12,594	15	12,609	5,017	47.9	1,730	
1,000以上	6	1,676	17,565	15,465	30	15,486	2,079	29.0	1,418	

資料：農林省統計調査調べ

註：労働日数には飼料作物栽培労働を含む

鶏卵生産費の内訳

(100キログラム当り：円)

	全国平均	～100羽	100～250羽	250～500羽	500～750羽	750～1,000羽	1,000羽以上
飼育労働費	84	—	—	28	123	19	174
直接材料費	150	144	174	203	160	112	106
飼料費	10,683	10,413	10,673	10,874	12,451	9,572	10,492
建物費	346	405	361	435	258	279	304
農具費	343	214	299	505	198	382	251
賃料々金	73	100	96	74	79	37	73
種鶏費	2,184	2,679	2,604	1,899	1,518	1,188	2,672
産卵材料費	1,669	1,822	1,665	1,903	1,941	1,376	1,503
費用合計	11,102	10,750	11,011	11,276	12,959	9,824	10,986
副産物	3,047	3,533	3,202	3,339	3,509	2,785	2,713
第一次生産費(控除副産物)	14,980	18,776	16,054	15,572	15,885	11,904	14,657
地代	49	55	48	38	57	81	49
資本利子	782	948	953	791	817	609	750
第二次生産費	15,811	19,779	17,055	16,401	16,759	12,759	15,456

資料、前表に同じ。

岡山畜産便り 1962.08

- (1) 第一次、及び第二次産業費でみると 100 羽前後の規模を除き、その他の規模の間では生産費に著しい差はないといえようが、傾向としては規模の大きくなるに従って、てい減しているようである。
- (2) 生産費のうち、飼料費については 100 羽前後の規模においても、1,000 羽以上の規模においても殆んど差がない。このことは、とくに購入飼料費においてけ顕著にあらわれている。
- (3) 飼育労働費においては規模が大きくなるにしたがって、低減する傾向がみられる。これは、単位当り飼養労働時間が規模の大きくなるにしたがって減少するためである。
- (4) さらに飼養労働時間はとくに飼料の調理給与、給水の投下労働時間が、単位当りでみて、大規模飼育になるにしたがって減少するためである。
- (5) 投下労働時間に差がみられるために一日当りの労働報酬は飼育規模により差が生じ 100 羽前後

では一日当り 251 円、250～500 羽および 500～750 羽規模では 623 円～613 円、さらに 1,000 羽以上では、1,418 円と規模が大きくなるにしたがって著しく高まっている。

以上のほか、飼育方法について、飼育規模別にみると、規模が大きくなるに従って、平飼からバタリー飼育の割合が高まっていること、また、販売方法については、規模が 1,000 羽というように大きくなるにしたがって、農協出荷、業者店頭の販売割合は低下し、これに変わって農家庭先販売の割合が著しく高まる傾向をみせている。これは、規模が大きくなるほど企業的な経営となり、常時一定量の販売が可能となり、業者が庭先まで引取りにくるが、中小規模では店頭まで運搬するという差によるものであろう。

「草の週間」でコンクール写真募集

9月1日から7日まで行なわれる草の週間中の行事として「草と家畜」の写真コンクールを開催します。ふるって御応募ください。

「草と家畜」写真コンクール

募集要領

- (1) 自作、未発表のもので簡単な題をつけ、住所、職名、氏名を明記すること。
- (2) 写真の大きさは四ツ切り以上で、ネガとともに出品すること。作品は返還しない。
- (3) 締切期日 昭和 37 年 9 月 20 日までに畜産課到着のこと。
- (4) 賞金 一等 一点 5,000 円、二等 二点 2,000 円、三等 5 点 600 円
- (5) 発表は「岡山畜産だより」10月号に発表する。
- (6) 入選作品は県畜産共進会等の開催会場に展示する。
- (7) 作品は岡山県畜産課において審査選考する。